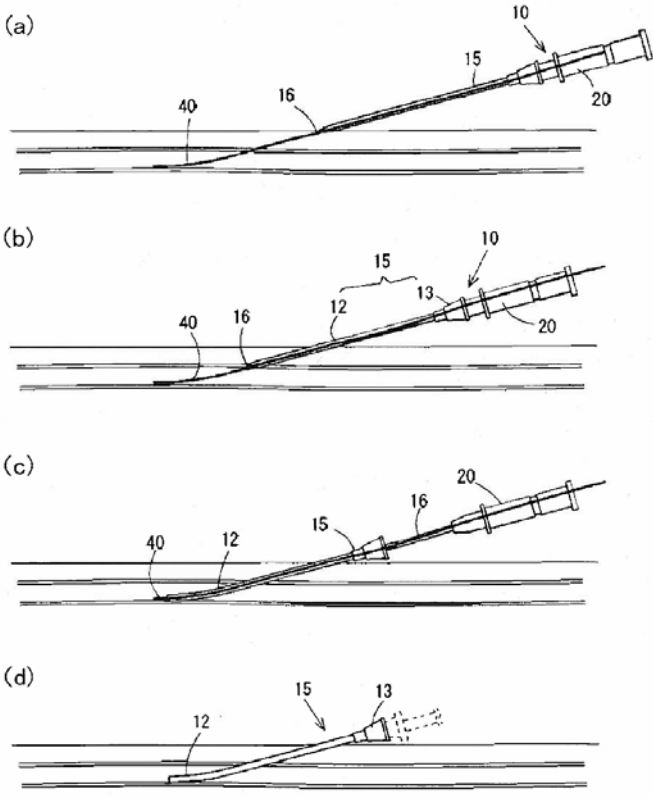


【大学シーズ情報】 ※印の項目は必須項目ですので、ご記載ください。

◇本事業では、大学の「知財」「技術シーズ」全般を取り扱います。

特許の有無は問いません。

大学名 信州大学

<p>※研究タイトル</p>	<p>セルジンガー法に適した新しい穿刺針による太い末梢静脈路確保法</p>
<p>※研究者の所属学部 学科、役職、氏名</p>	<p>医学部 麻酔科蘇生科 助教 井出 進</p>
<p>技術のポイント</p>	<p>本発明は、緊急時においても、安全にかつ的確に、静脈路を確保することを可能にする穿刺針及び穿刺針キットを提供する。</p>
<p>現在の研究開発段階</p>	<p>A 基礎研究段階 ・ B 試作段階 ・ C 実用化段階</p>
<p>※技術の紹介</p>	<p>静脈路の確保に用いられる、留置針と内針とを備える穿刺針であって、内針は留置針に設けられたカニューレに内挿される針管を備え、針管には、ガイドワイヤを挿通する挿通孔が設けられ、挿通孔にガイドワイヤをガイドするガイド部が設けられている。針管は、先端部が複数の切欠面により切り欠かれてなる尖鋭形状に設けられ、挿通孔は、複数の切欠面のうちの一つの切欠面上のみにおいて開口する。</p> <p>ガイドワイヤを用いて予め血管を確保して後、穿刺針による穿刺操作を行うことが可能になるため、多量の輸血が必要な場合等の太径の穿刺針が必要な場合であっても、確実、迅速に静脈路の確保を行うことが可能になる。</p> 

大学名 信州大学

<p>研究の背景</p>	<p>穿刺針を用いて静脈路を確保する処置では、通常、処置の確実性を考慮して細径(22ゲージ程度)の穿刺針が使用される。しかしながら、麻酔・救急領域や、腹部大動脈瘤破裂といった疾患によっては、大量の輸血が必要になる場合があり、このような場合には輸血流量を確保するためにより太径(16ゲージ程度)の穿刺針を用いて静脈路を確保している。しかし、太径の穿刺針を用いて静脈路を確保することは技術的に難しく、穿刺成功率が低い。</p>
<p>従来技術より優れている点</p>	<p>本発明においては、まず、静脈路を確保する操作を、確実性の高い処置が可能な細径の穿刺針を用いて行い、その後、ガイドワイヤを組み合わせることで、さらに太径の穿刺針による静脈路の確保を可能とする。この方法によれば、はじめから太径の穿刺針を使用して静脈路等を確保する処置を行う場合と比較して、はるかに確実に静脈路を確保することができ、大量に輸血する操作が必要な場合等に好適に利用することができる。</p> <p>静脈路を確保する処置として通常使用されている穿刺針よりも太径である 16 ゲージの穿刺針を使用する場合、1 回の操作で静脈路の確保に成功する確率は一般に 25%程度であるところ、本発明を用いることにより、1 回の操作で静脈路の確保に成功する確率を 95%程度まで向上させることに成功した。また、本発明を用いることにより、太径の穿刺針を使用する際に通常必要となるダイレータが不要となるという利点もある。</p>
<p>※技術の用途イメージ</p>	<p>医療用穿刺針</p>
<p>中小企業への期待</p>	
<p>知財情報 (注) 特許番号がありましたら記載ください</p>	